

# 2023年度キャンパス・アクティビティ助成金 成果報告書

——「H village 夏祭り」の開催目的とその成果、今後への活かし方——

2023年8月28日

環境情報学部3年

小栗章太郎

## 1. 活動の概要

「H village 夏祭り」では、すいか割りと盆踊りという日本の夏の催し物を企画・実行した。本活動は2023年7月26日に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）Hヴィレッジにて開催し、対象者はSFCに通学する学生全員とした。

## 2. 活動の目的

「H village 夏祭り」では、H（イータ）ヴィレッジの入寮生とその他の学生、教員との交流を通して、今後HヴィレッジがSFCの中で担う役割を模索する。Hヴィレッジはキャンパス内にあるため学生全員のキャンパスライフへ影響力を及ぼす可能性があり、Hヴィレッジ入寮生が「H village 夏祭り」を開催することでキャンパス全体の活性化に貢献することが期待できる。

キャンパス全体の活性化は、普段関わることの少ない学生間の交流および学生・教員間の交流によって達成できると考える。たとえば、Hヴィレッジに入居する学生以外で「H village 夏祭り」への参加が見込まれるのが、湘南藤沢国際学生寮（SID）に入居する学生だ。HヴィレッジとSIDは近所だが、学生間の交流が盛んであるとは言えない。そのため、まずはキャンパス近くに住む学生どうしが仲良くなれるような機会を提供したい。

さらに、Hヴィレッジに入居する留学生が他の学生と交流できる機会を設けることで、それぞれ別々で行動しがちな状況を緩和できると考える。留学生が他の学生と一緒に「夏祭り」という日本の年中行事を楽しむことで、少しでも寮生活や大学、あるいは日本に馴染むきっかけを与えられれば幸いだ。留学生が活き活きとキャンパスで生活することも、キャンパス全体の活性化につながると考える。

また、現在Hヴィレッジは居室の半数以上が空室だが、本活動を通してHヴィレッジの魅力を発信し、入居希望の学生を増やすことで、将来におけるキャンパスの活性化に貢献することも本活動のねらいである。

## 3. 知見・成果

夏祭り当日は夕方7時過ぎからの開始で、総勢50名ほどが参加した。期末考査も終盤だったため普段よりもキャンパスに滞在する人が少なかったにもかかわらず、予想を上回る人数が集まり盛り上がった。

まず、すいか割りでは一度で割れないすいかを2人で協力して割ることで、面識のない者どうしの交流を促進することに成功した。割った後記念撮影をし、言葉を交わす姿を見ることができた。Hヴィレッジは4棟からなる学生寮であり、それぞれの棟に住む寮生は別々に行動することが多いのだが、すいか割りが各棟間のアイスブレイクに貢献できることを確認した。

次に、盆踊りではそれまであまり親交がなかった寮生の意外な一面を見ることができ、それによって会話の間口が広がった。具体的には、普段比較的おとなしい人が当日盆踊りの曲を提

案し、彼の振り付けにしたがって踊るということがあった。基本的には夏祭り実行委員が選曲と振り付けを担当していたのだが、その場の流れで、当初は予定していなかった参加者からの提案も受け入れていった形だ。加えて、おかしな振り付けに思わず笑ったり、各々の地元の盆踊りはどうだったかについて話し合ったり、他の人が踊っているのを見て楽しんだり、それぞれ思い思いの過ごし方ができていたことから、参加者がリラックスしながら親交を深めていたことがうかがえる。

最後に、後片付けでは夏祭り実行委員だけでなく参加者にも協力を募ることで、全員が参加者であり、また運営者でもあるという考えを浸透させようと試みた。具体的には、机や椅子を元の位置に戻したり、すいかの汁が付着したレジャーシートを洗ったりすることを通して、「自分たちのイベント」だという意識を持ってもらうことをねらった。協力して片付けることで、お祭りの延長戦さながらより一層の交流が生まれることも期待した。その結果、指示を出したりお互いに声をかけあったりして、普段接する機会の少ない人どうしの交流が促進された。



写真上3点：夏祭りの様子

#### 4. 今後の方針

交流促進や話のきっかけ作りのために、イベントの開催は効果的であるとわかった。準備や片付けを含むあらゆる段階で、積極的に声をかけ合う場面が確認できたからだ。今後も同様のイベントを企画し、さまざまな興味・関心を持つ人たちどうしを出会わせることで SFC 全体を活性化していきたい。Hヴィレッジがそのための発信地として機能できれば良いと考えている。

一方で、イベントを企画・実行する上で改善したい点はいくつか見つかったため、今後に活かしていきたい。たとえば、準備期間の短さからメンバーの偏った運営チームを発足するしかなく、一部の人に十分な情報が伝わっていなかったことだ。今後はHヴィレッジの各棟でレクリエーション係を編成し、一部の棟出身者に偏らない運営チームをつくりたい。これによって全棟へ情報が行き渡り、参加者の増加が期待できる。さらに、Hヴィレッジ全体でひとつのイベントを開催するだけでなく、各棟がそれぞれ特色あるイベントを主催することで毎回興味・関心の異なる層の参加が見込まれるため、一層の活性化が期待できる。

#### 5. 謝辞

本活動は、慶應 SFC 学会のキャンパス・アクティビティ助成金による補助を賜った。厚く御礼申し上げます。